

NST NEWS 第6号

発行日：令和6年6月27日

発行：宍粟総合病院 NST 委員会



エネルギーは足りていますか？そんな時は**脂肪乳剤**を使いましょう！

TPN 時における脂肪乳剤の役割としては、エネルギー補給および必須脂肪酸欠乏の予防、糖質の過剰投与における高血糖や脂肪肝の防止があげられます。

ルートの確保で困っていませんか？

脂肪乳剤は末梢で単独が望ましいのですが、TPN 輸液ラインに側注して（フィルターよりも患者側から）投与することが可能です。感染予防対策を確実に実施しましょう。

ただし、脂肪乳剤と TPN 輸液を混合することはできません。

→脂肪粒子が凝集し粗大化することによって、さまざまな問題が起こります（肺塞栓など）。

※脂肪乳剤を側管投与する際の注意点

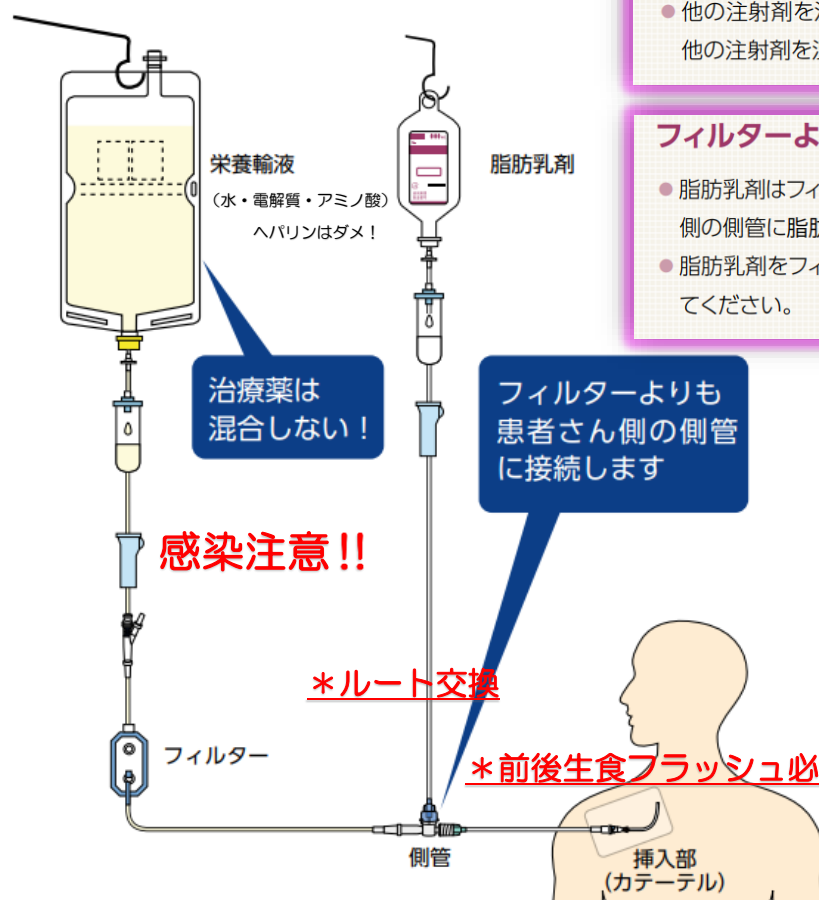
治療薬（他の注射剤）を脂肪乳剤に混ぜないこと

- 他の注射剤を混ぜないでください（内容液が白見えるため、他の注射剤を混ぜた時に沈殿や混濁を生じてわかりません）。

フィルターよりも患者さん側に接続すること

- 脂肪乳剤はフィルターを通らないので、フィルターより患者さん側の側管に脂肪乳剤の輸液ルートに接続します。
- 脂肪乳剤をフィルターに通すとフィルターが詰まるので注意してください。

例 中心静脈ルートの場合



JSPEN ガイドライン第3版では、

「脂肪乳剤の投与速度は、基本的には 0.1 g/kg/時 より遅く投与する。」を推奨されています。例えば、体重が 40 kg の方では5時間以上かけて投与することになります。

